

千葉農林振興センター

普及だより

URL <http://www.pref.chiba.lg.jp/apcenter/chiba/> eメール chibaaec@ma.pref.chiba.lg.jp

【第128号】 2009年3月1日

発行：千葉農林振興センター
振興普及部改良普及課
千葉農業改良普及事業協議会

分庁舎：千葉市緑区大金沢町473-2
TEL 043(300)0950
FAX 043(293)2710



みんなで語ろう！次の世代へのバトンタッチ 千葉地域青年農業者・ 農業士等合同研修会



平成二〇年一〇月二二日に千葉市のプラザの花において青年農業者と指導農業士・農業士との合同研修会を開催しました。経営体育成セミナー生やスキルアップ研修生などの後継者世代と、指導農業士やセミナー生の家族などの親世代合わせて四〇名が参加しました。

今回のテーマは「経営の円滑なバトンタッチ」。前半の講演会では、独立行政法人中央農業総合研究センターの梅本雅氏及び山本淳子氏から、継承対策を計画的に行うことの必要性、就農した後継者に対する仕事の任せ方やタイミング、親子間のコミュニケーションの大切さなど、「農業経営の円滑な継承に向けての進め方とポイント」を全国の実践事例を交えながら話していただきました。また、講演前に後継者世代、親世代に内容を分けて実施したアンケートの集計結果からは、世代間における意識の差があることが示されました。

後半では、後継者世代・親世代を交えた四つのグループに分かれて講演内容をテーマとした意見交換を行いました。後継者世代からは親との仕事のやり方の違いなどの悩みがあると、親世代からは自分の経験を踏まえたアドバイスがありました。

参加者からは「世代を越えて話が出来て良かった」、「親子のコミュニケーション不足を改善していきたいと思った」等の感想が寄せられました。あらためて取り上げて話をする機会の少ないテーマですが、今回の研修会とおして参加者の経営継承に対する意識の変化を感じ取ることができました。（佐久間）

目指せ！アグリトッププランナー 次代の千葉県農業を担う人たちの 学びの場「ちば農業未来塾」の開催

年間販売額三千万円以上を目指す意欲的な農業者を「アグリトッププランナー」として対象とした「ちば農業未来塾」が今年度新設されました。

県内外の先進的な農業者の実践事例を基に、売上げ、収益性向上に向けた農業経営のあり方についてヒントを得て、農業者団らが①経営課題の把握、②経営改善や販売力向上に向けた具体的なビジネスプランの検討、③ビジネスプランの実現に向けた能力向上を図ることを目的としています。

全三回の講座は県内六ブロックで開催され、当管内からは一八名の申し込みがありました。一回目のテーマは「眼のつけどころを見定める」。講義と実践事例からマーケティング能力を身につけて農業をやっていく必要性について学びました。第二回の講座では、柏市で大規模水稲と直売経営をされている染谷茂さんを迎え、事例報告や座談会をおして実践者から学ぶとともに、売上げ、収益性アップを目指す計画づくりの実習も行



講師を交えての座談会

いました。二月に行われた最終回は六ブロック全ての受講者を対象に千葉市で開催され、未来塾で学んだ成果の発表と、参加者並びに先進的農業者との交流イベントも併せて行われました。

この講座をきっかけとして一人でも多くのアグリトッププランナーが誕生することが期待されます。

(山口)

にんじん産地から都市部型の直売所経営へ

今回紹介する三代川善延氏

(二八歳)は、JR津田沼駅の近くで農業を行っています。畑は駅から徒歩五分ととても近い場所で、にんじん・ねぎなどの露地野菜を栽培し共選で市場へ出荷してきました。

◎新たな経営への転換に向けて

しかし、駅前農地は大開発で消えゆく運命でした。そこで、三代川さんは、就農後三年目の平成一四年、自分が作った野菜を直接お客様に食べていただくとうと直売所を開始しました。直売所でメイになる野菜は自分でも好きないちごの栽培を始めました。現在六年目を迎え直売所も軌道に乗りつつあります。

◎目指す農業の方向性

いちごの直売所の営業日は月水土の三日です。また、他の野菜(二〇種類位)は土曜日のみ販売しています。将来は、通年週六日の営業にする計画です。現在は、直売・市場出荷が半々ぐらいですが今後は直売八〇%の経営を目指したいとしています。

◎家族との協力

三代川家では家族経営協定を結び家族内でのルールを作っています。直売いちごは善延氏の担当です。また、昨年九月に結婚、現在は奥さんも一緒に農業をしています。

◎今後の経営について

JR津田沼駅前の開発で、確実に直売所の顧客が増加します。新たな顧客をターゲットとしたマーケティングを展開していきたいと語ってくれました。さらに、農業経営の学習は経営体育成セミナーを卒業し、今は、ちば農業未来塾に参加し勉強を続けています。

(櫻井)



直売所での三代川善延さん

千葉地域の特産作物の生産振興 アグリビジネス普及活動

支援事業の推進

八月号に引き続き、管内のアグリビジネスについてご紹介いたします。

3. 市原市のちばエコ米販売推進

市原市は水稲作付け面積が約二千八百ヘクタールにおよぶ米処です。米の販売はJAへの共同出荷による委託販売が中心であり、「市原コシヒカリ」として、地元消費者への販売を行ってきました。

そのような中、販売の多様化に向け、消費者ニーズと生産者のこだわりを結びつける「ちばエコ米産物」の推進によるアグリビジネスの展開が地域にとり重要と捉え、ここ五年間で水稲作付け面積の二割を転換することを目指してきました。

また、地元では土づくり運動から始まったブランド育成としての「養老のめぐみ」が、こだわりの生産基準と食味基準を設けた最も付加価値の高い米として定着しつつあり、これも「ちばエコ米」です。販売強化を進める養老のめぐみ検討委員会では、宣伝方法やブランド力向上について検討していきます。その結果、生産者自ら販売

に立会い、消費者へ向きあうイベントも試みられています。

また、道の駅あずの里をはじめ市内の直売所では、ほとんどが「ちばエコ米」に取り組み、適正な表示や包装の工夫などが見られます。

現在、市内の「ちばエコ米」は延べ六二人、約九〇ヘクタールで取り組まれ、目標を上回り水稲作付け面積の二割が「ちばエコ米」となるに至り、付加価値販売の実践がおこなわれています。(保坂)



生産者も養老のめぐみを販売

4. 千葉市特産品らっきょうの産地振興

千葉農林振興センターでは、平成一八年度より関係機関と生産者で構成する「千葉市らっきょう産地振興協議会」を組織し、共販組織の強化を柱に、らっきょうの産地育成に取り組んでいます。

らっきょうは千葉市南東部地域で古くから栽培されていますが、近年、女性や高齢者を中心に、軽量で栽培しやすいなどの理由から経営に導入する生産者が増えてきました。このような背景から、秋冬にんじんなどの基幹品目と組み合わせやすい千葉市の特産品として、栽培を推進しています。これまで、生産性向上のための栽培試験を重ねてきた他、栽培技術などの情報提供や、加工技術の向上と普及に努めてきました。

～今年度の活動と今後～

これまでの活動の成果や産地状況の分析から、産地規模の維持拡大のために、種球の安定確保を重要課題と位置づけ、主力産地の種球の流通実態の調査を行いました。その結果、種球の安定確保には、作付け前年までの需要量の把握と、種球の計画的増殖体制の構築が重要とわかりました。現在は千葉市農政センターから配布され

るウイルスフリー種球を主に利用していますが、これに加えて、市販の種球から有望系統を選定し、栽培特性試験をしています。

また、系統販売される千葉市産らっきょうの販売実態や評価の確認のため、県内の小売店六店舗で聞き取り調査をした結果、千葉市産は店頭での取り扱い時期が他県産より遅いものの、千葉市産を支持する固定客も多いことから、有利販売のために、早期出荷の取り組みが改めて重要と認められました。

今後関係者と連携をとりながら課題解決に取り組んでいきます。

(早崎)



有望系統の栽培特性試験

千葉地域のリーダーです！

平成一八、一九、二〇年に認証された指導農業者、農業者及び農山漁村いきいきアドバイザーをご紹介します。

【指導農業者】

●平成一八年

高梨精司氏 (千葉市 施設・露地野菜)

地野菜)

長崎秀男氏 (千葉市 露地野菜)

菜)

花島明美氏 (八千代市 農産物加工)

加工)

●平成一九年

安原哲氏 (八千代市 酪農)

北見則宏氏 (市原市 養豚)

●平成二〇年

横田剛氏 (千葉市 花・野菜苗)

苗)

萩原正氏 (八千代市 施設・露地野菜)

地野菜)

【農業者】

●平成一八年

市原勝吉氏 (千葉市 花壇苗)

●平成一九年

高橋義男氏 (千葉市 施設・露地野菜)

地野菜)

安藤哲也氏 (市原市 野菜苗、施設・露地野菜)

羽鳥晃洋氏 (市原市 水稲、露地野菜)

地野菜)

古川謙一氏 (市原市 果樹、野菜、花き、水稲、農産物加工)

●平成二〇年

若菜和成氏 (千葉市 施設野菜、果樹)

須田裕一氏 (八千代市 露地野菜)

菜、果樹)

三代川誠一氏 (習志野市 施設・露地野菜、直売所経営)

菜)

【農山漁村いきいきアドバイザー】

女性の経営参画と地域活性化に資することを目的に、地域農林水産業の振興や、活力ある農山漁村づくりに積極的に取り組んでいる農林水産業従事者を認定する制度です。平成二〇年度は次の方が認定されました。

伊場美津子氏 (市原市 農産物加工・農産物直売所経営)

高橋正孝氏 (八千代市 酪農)

「農業経営体育成セミナー」新規受講生募集中！

●セミナーでは何をやるの？

千葉農林振興センターが主催する就農直後の農業者を対象とした三年制の勉強会です。月に一回ほど集まり、地域内外の優良事例の視察や講義などを通して、共に農業に取り組み仲間と交流を深めながら、農業に関する知識の習得や技術の向上、将来の目標設定を目指します。



農業の基礎的知識について講義で学びます。

●こんな方におすすめです

- 肥料や農薬の使い方など農業の基礎的知識を身につけたい方。
- 販売や経営についても理解を深めたいと思っっている方。
- 農業を始めたいけど、どんなタイプの経営をめざしたらいいか将来の方向性を決めかねている方。
- 同年代の仲間と情報交換、意見交換したいと思っっている方。



セミナー生のほ場をお互いに訪問し、様々な経営を学びます。

●興味があったら連絡を！

千葉地域(千葉市、習志野市、市原市、八千代市)にお住まいの、おおむね三十五歳までの就農直後の(就農後数年)農業者。経営品目は問いません。

五月下旬の開講に向けて現在新規受講者を募集しています。お問い合わせ・お申し込みは当センター改良普及課まで(今井)

お詫びと訂正

千葉農林振興センター普及だより八月号の金国ナシ研究大会の記事で、講演した梶浦一郎氏を梶原氏と掲載してしまいました。梶浦氏及び関係各位にお詫びし訂正します。